

大名庭園を未来につなぐ

地域を愛するすべてのみなさま方へ

公益財団法人中津万象園保勝会
ケーステートメント 2021

「江戸時代から続く丸亀京極藩のお庭中津万象園を応援してくれる人の輪を広げたい！」

～公益財団法人中津万象園保勝会の【活動棚卸し書（ケーステートメント）】をお届けします～



公益財団法人中津万象園保勝会 理事長
真鍋 雅彦

中津万象園にとって大きな転機が訪れています

このたび、公益財団法人　中津万象園保勝会では、賛助会員やご支援いただける方を増やし、未来にこのお庭をつないでいこうと、財団の活動やお庭の維持管理について紹介する【ケーステートメント】という冊子を作成いたしました。

現在、このお庭の維持保全活動をしている私たちが、荒れていた大名庭園を修復し、一般に公開したのは約40年前のこと。当時、社業伸展にひたすら邁進していた私たちに、「企業は得た利益を地域に還元しなければならない」、「文化を知らないことは寂しいことだ」と、地元出身の田村実造先生（元京都大学名誉教授、京都女子大学学長）が教えてくれたことが、中津万象園の維持保全に取り組む契機となったそうです。

以来、「地域の文化を守るのは、企業の役割だ。」と誇りをもって活動してきました。そして、もう、荒れていた年月を思い出せないほど、長い時間が過ぎました。

今の中津万象園は、美しく手入れをされています。しかし、実はぎりぎりの状態でなんとか踏ん張っているのが現状です。常に手入れを必要とする『生き物』である庭園は莫大な管理費用を要し、何かささいなきっかけでも、いつ荒れてしまうか分かりません。もし一本でもマツクイムシがつけば、あっという間に園は壊滅状態に陥るでしょう。それを支えているのは、園をずっと見続けてきた、たった数人の庭師の経験と知識、そしてまだまだ少数の賛助会員などの皆さまです。

中津万象園の魅力を見つけ、語り広めてくださる人は、少しずつ増えてきてはいます。でも、支援の輪、支えてくれる手は、多いほどいい。そのことにこれからはしっかりと向き合い、この場所を大切だと思う人を一人でも増やすために、私たちは語り続けなければいけない。そうしなければ、こんなに手間と費用がかかるお庭ですから、またもと通りに荒れてしまうかもしれません。

経済の状況がどうなっても、「生き物」であるお庭の木々は伸び続けます。２０２０年から続く新型コロナウィルス感染症の影響で、多くの人たちが大きな打撃を受けました。私たちも同様で、最もお庭の輝く季節である春にほとんど入園者を迎えることができず、非常に苦しい年を過ごしました。

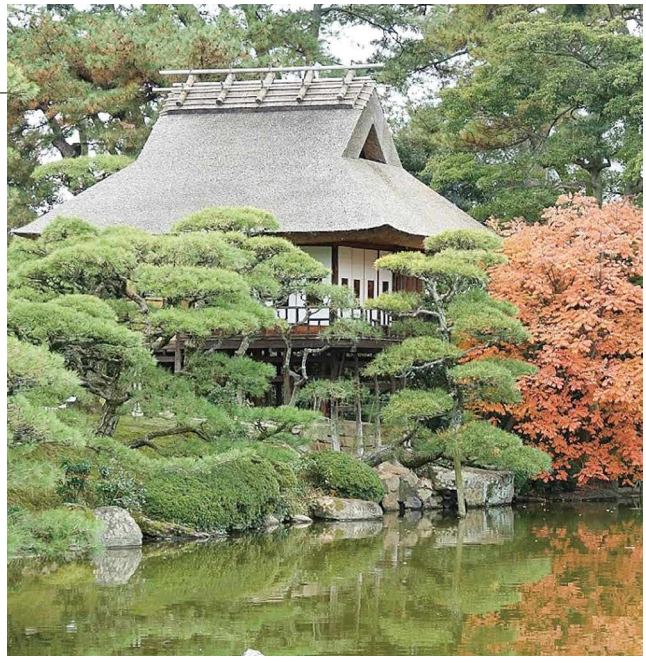
「そんな今の状況で、『文化を守る』って優先度は高いの？」というかたもいらっしゃるかもしれません。ただ、私たちは思うのです。文化は、贅沢品でも嗜好品でもない。いわば、私たちの根っこのようなもの。そして、一度なくしてしまえば、二度と元通りには取り戻せないもの。文化の喪失は、私たちの精神を長い時間かけて蝕んでいくものではないでしょうか。

厳しい情勢の中で、経営の安定を図るためにあらゆる努力を地道に続けながらも、ここを守ることを放棄するわけにはいきません。手入れを諦めてしまえば、あっという間に荒廃してしまうからです。

私たちはこれからも、この場所を、地域の皆さまから「宝物」だと思ってもらえるように、しっかりと育てていきます。それは、庭を知り尽くした私たちの責務です。

どうぞ、ひとりでも多くの皆さまに、応援していただけますよう、よろしくお願いいたします。

公益財団法人中津万象園保勝会のケーステートメント



目次

1 ミッション―中津万象園保勝会の存在意義―
2 中津万象園保勝会の具体的な活動
3 活動を通じて実現すること
4 中期計画と評価
5 ガバナンス
6 財務・予算
7 活動のつながり、ひろがり

支援メニューについて



1 ミッション

「未来文化遺産の創生。」

中津万象園保勝会の存在意義

名勝の適切な維持保全と価値の再発見

今現在も『姿を消しつつある』大名庭園

栗林公園、中津万象園と二つの大名庭園を擁する香川県。県民にとっては身近で、そこにあるのが当たり前ともいえる大名庭園ですが、全国では少なくとも二つがこの20年間で姿を消しました。

大名庭園は、なぜ姿を消しつつあるのか

江戸時代には千にものぼる数があったという大名庭園。現在は全国でも50しか残されていませんが、しかしいずれも江戸時代を代表する文化遺産としての価値は定まり、守られるべき地域の宝として認知されているはずです。

しかし

- **城下町の好立地から、「中心市街地のまとまった敷地」としての市場価値を有する**
- **庭園としての価値を維持するためには高度な手入れとそれに伴う莫大な費用を要するため、入園料だけでは運営が成り立たないという構造的な課題がある**

以上の点から、民間の力で庭園として維持し続けることは難しいという現状があります。

※姿を消した大名庭園



中国地方 B園

頼山陽命名による池庭。1960年以降大手企業が福利厚生施設として維持保全していたが、2002年に閉園。解体撤去され、高齢者複合施設に。



中国地方 A園（池庭）

所有者の逝去後、2013年に解体撤去され、現在はマンションに。



「萬象園眞影」（模写）

瀬戸内海を借景とした優雅な様子がよく表されている

中津万象園も、様々な所有者を転々とした歴史が。

１６８８年から今に続く中津万象園もその例外ではありません。実は明治以降は、およそ20年ごとに所有者を転々と変えています。



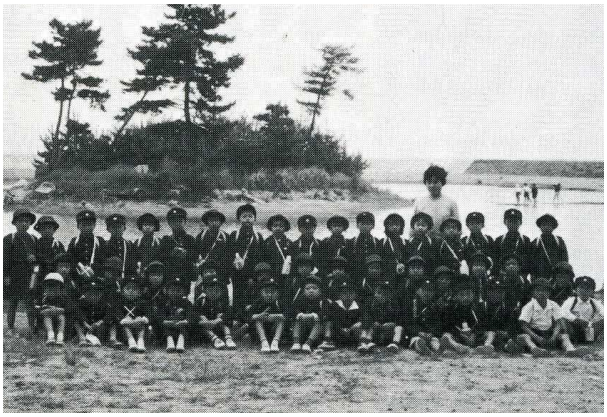
京極家の手を離れた後、お庭は荒廃。

明治25年には多度津の富豪の所有となり、荒れていたお庭は大規模に修復され、海水浴場等の市民の遊興の場として一般に公開、中津は大勢の人で賑わう場所として蘇りました。

大正7年には合名会社鈴木商店（のちに〝総合商社の源流〟と呼ばれる）の所有に。昭和11年には再び地元市民の手に還りました。

しかし戦後には、昭和南海地震による地盤沈下、度重なる台風高潮などを受け、広さ一万五千坪におよぶ広さのお庭は次第に荒れてゆきました。

池の周囲の石は水没、樹齢３００年にもなる松も一部は枯れ、茶亭やあずまやも荒廃の一途をたどりました。









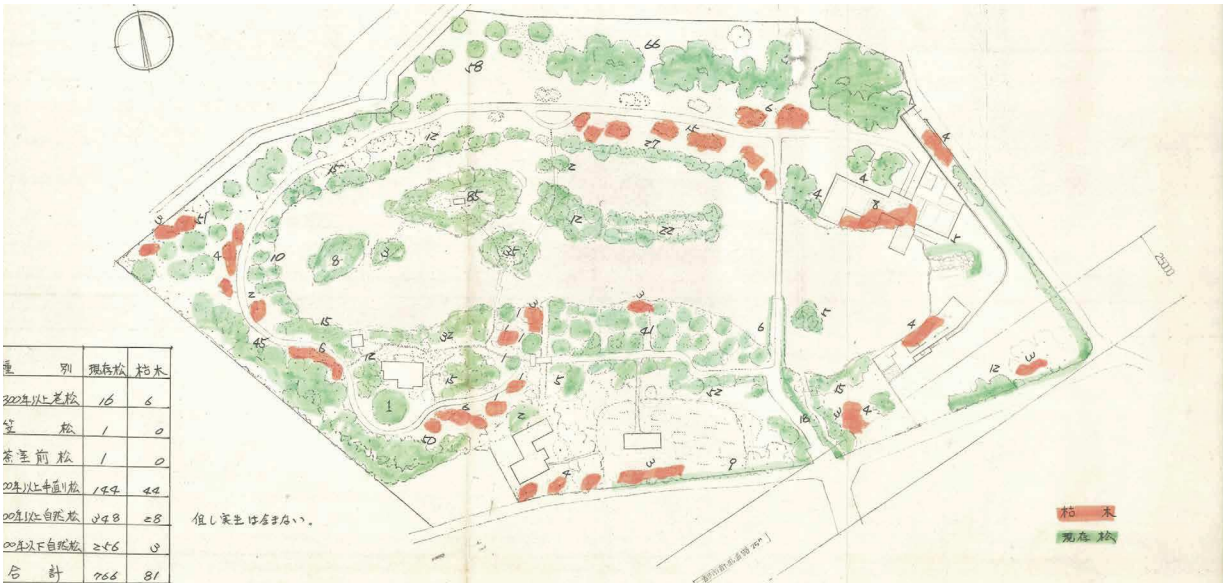




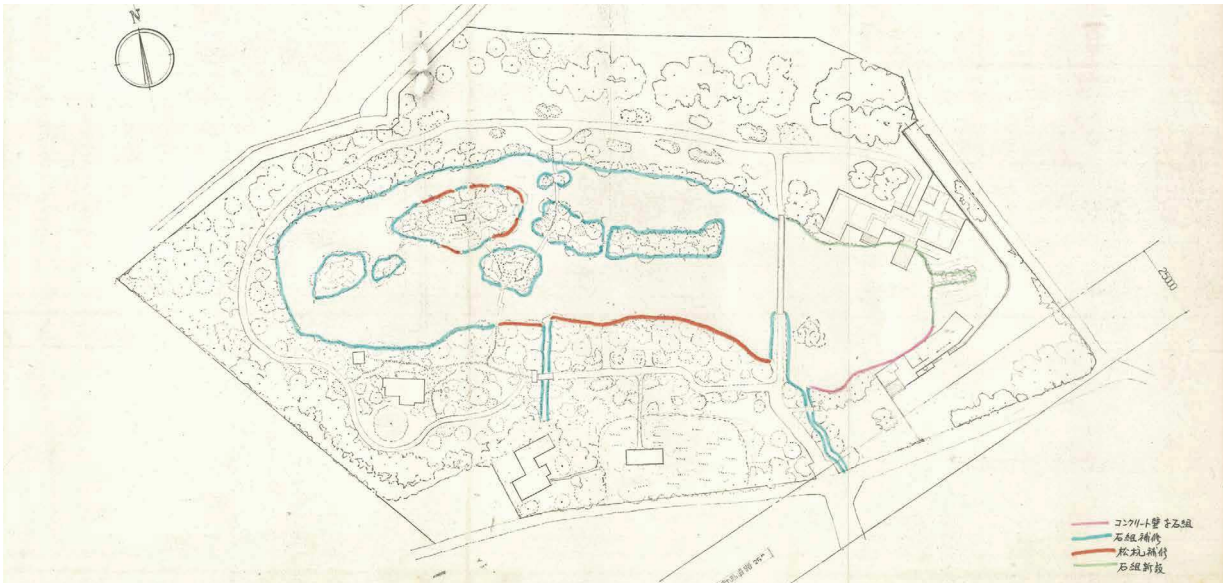


大名庭園を、未来につなぐ

１９７０（昭和45）年から修復、１９８２（昭和57）年に公開されて40年。この大名庭園をこの先も守り続け、存続させることが最重要課題です。



修復着手当初、樹齢300年以上の松が6本、100年以上の松が81本枯れている状態。ここに雑木4524本を補植、814本を新しく植栽した。



水没した石を取り出して組石したのが826トン、新たに購入し復元した組み石が合計2090トンであった。

修復から公開 そして現在に

現在の中津万象園の姿は、１９７０年に庭園所有者となった富士建設による再生活動によるものです。地震や度重なる台風の被害で荒廃していた同園を造園家・中根金作氏の指導のもと12年の歳月をかけて修復しました。その作業は合計５千本以上の樹木の植替え・植栽、３千トン近くにおよぶ石の組替えという大規模なものでした。

同時にミレー・コロー・ルソーなど19世紀のフランス絵画を展示する絵画館、紀元前２５００年頃から13世紀頃までのペルシャ陶器を展示する陶器館も併設されました。

このような経緯で現代につながっている大名庭園。歴史を守り文化振興の拠点として、豊かな地域の未来につなぎ続けることが、中津万象園保勝会の唯一最大のミッションとなっています。











お庭さんは中津万象園と一体の存在

中津万象園では、美しさを保つために、「園の木々一本一本を知り尽くした」常駐の庭師による手入れを行っています。この「お庭さん」は、もはや中津万象園の一部として欠かせない存在です。お庭さんが毎日手をかけてこその中津万象園。両方あってこその地域財産と考えています。

2 中津万象園保勝会の具体的な活動

大名庭園の維持保全・活用

名勝庭園の適切な維持保全とは

「庭園は生き物」であるゆえに、日々の手入れが欠かせません。そして生き物ゆえに、木々が構成する風景は刻々と移り変わり、当時のままの姿にとどめるのは困難です。

庭園の誕生と歴史的な経過を紐解いても、そもそも庭園は使い手と相対して用途・目的を変えて行く存在であり、時代時代で変化をしてきたのが当然と言えます。

そのため、文化財としての庭園の維持管理上のポイントとしては、

①適切な有識者の関与

②日常の絶え間ない手入れ

が必要となり、とりわけ②の日常の絶え間ない手入れは、「庭師」の手にかかっています。

１６８８年の作庭当初にも松の自然林が生かされていたと想像されますが、当時から既に３３０年以上経過。台風の際に大木が折れるなどの事態も発生していることから、各々の木とまるで会話をするように、コンディションを確認しながら手入れをすることが重要となります。



時にはガイド



高木の剪定



日常の清掃

造園課長　田口彰良

「庭は全体で一つの生き物やきん、全体を見んといかん」

雑誌やなんかのインタビューで、庭師の一番大事な仕事をきかれると、マツクイムシ駆除の薬剤散布と答えよる。でも実際は庭は全体で一つの生き物やきん、全体を見んといかん。

万象園はそれ自体が文化財やし、母屋や観潮楼みたいな大事な建物もあるやろ。そこにお客さんも入るわけやし、何かあったらいかん。クモもおるし、ヘビも出る。枝が折れてお客さんに当たってもいかんやろ?だきん、上から下まで安全確認しもって日常業務をしよんやで。

確かに、薬剤散布は物凄く気を使う。マツクイムシの薬剤は普通、5月末~6月末に2回散布するんよ。それが、うち(万象園)では5月末~7月上旬にかけて4回やる。あえて回数を増やすことで、かけ漏れが無いようにするんよ。単に回数増やしとるだけやなくて、おんなじ松の木でも、4回の間に薬かけるメンバーはローテーションしよる。庭師ごとにかけ方に癖があるきんな。なるべく平均的にかかるようにするため。

あと天気も気になる。薬剤かけた後でちょっとでも雨が降ったら、せっかくかけた薬が流れてしまうきんな。けど薬剤散布はちょうど梅雨時やろ?予定日の天気が気になって気になって、その時期はもう、天気予報ばっかり見よるわ。

それに薬剤散布はご近所さんのご協力が大事やきんな。散布の前には、「今年もやりますんでよろしくお願いします」いうて、計画書を近所に配り歩っきょる。隣接する公共施設には事前にお断りにも行くし、そこの松の薬剤散布の時は手伝うたり。うちの松だけ守っても、周りの松がやられてしもたら意味ないきんな。

幹に注射する方法や、新しい農薬が出たりするけど、昔ながらの手作業が一番間違いない。ワシは何年もそれでやってきて、実際マツクイムシはついとらんきんな。

もし(万象園の松が)枯れたら?原因がマツクイムシやったら、飛び石の鳥の糞掃除から修業し直すきん、ご指導よろしくお願いします。

マツクイムシのことばっかり言うたけど、枯れる松の木は年に何本かあるんやで。ほとんどがシロアリやわ。シロアリは何年も前から幹に入り込んで、何十年も時間をかけて空洞にしていくきんな。外から見ても分からんのよ。もう、どないしようもなくなってから気付くわけ。

あとは風やなあ。今年(2021年の台風9号)もそうやけど、風で折れる松がある。雨が降った後の強風が一番怖いきん、仕事が休みでも風が吹っきょったら様子を見に来るわな。もう、万象園はワシの生活の一部やきんな。

大傘松?そら、うちの目玉やし、枯らさんように気ぃつけよる。けど、怖いんは風で他の木が上に倒れてくることよ。だきん、風が吹いたら落ちてきそうな周りの木の枝を定期的に払うたりしよんで。

他の木だって気をつかう。いっときべニモンアオリンガの幼虫にやられて、園内のサツキとツツジが全然咲かんことがあった。あれ、ほんま悔しくて、県の農業試験場に何遍も行って駆除の方法を聞いたり、剪定の時期を調節したりして、試行錯誤を繰り返した結果が今(の満開のサツキ)につながっとるわけや。

これはほんの一例よ?松やサツキ以外にも、園内のいろんな動植物の生態系を守るんがワシの仕事や。最初に言うたけど、庭園は生きもんやきんな。ましてや万象園は350年近く生きとるご老人やから、ワシはその主治医として、毎日毎日診察しよるんやな。もう、ずっとこれだけ。誇りと生き甲斐を持って働いとるよ。

ほんだきん、もし万象園がまた放置されるようなことになったら、悲しいわなあ。

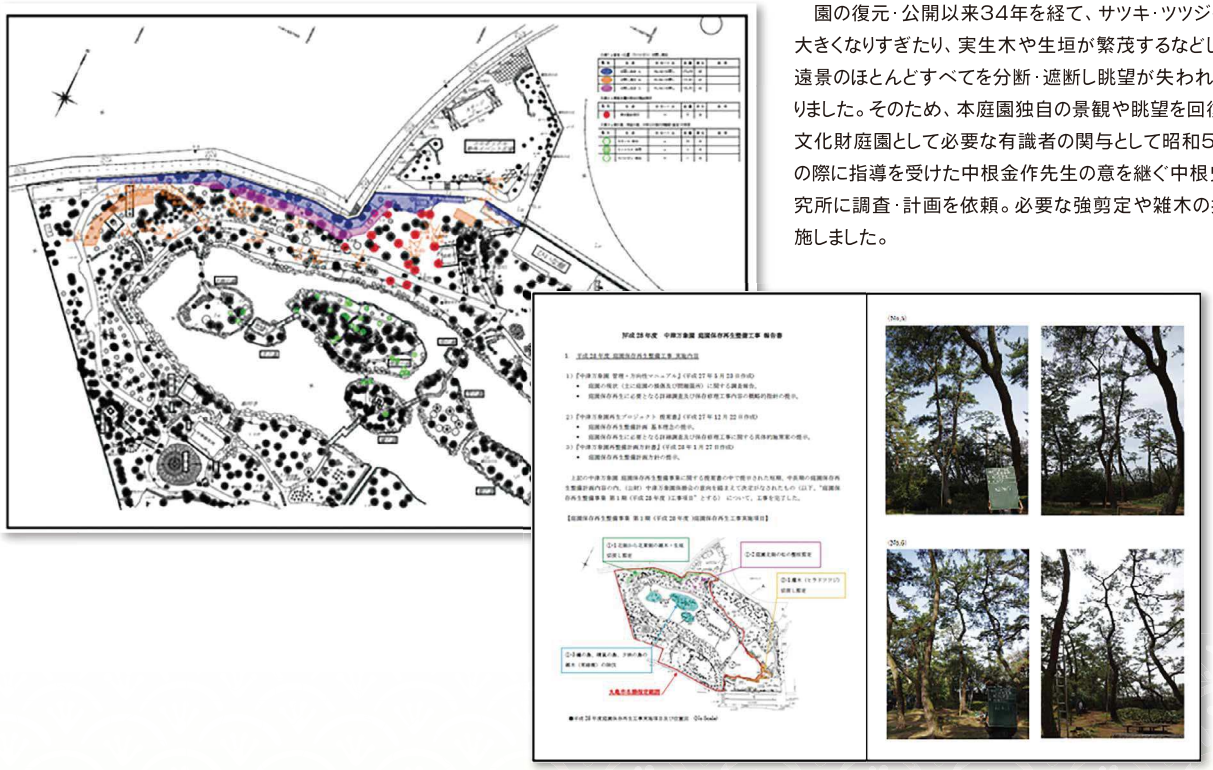
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
松(約5百本)	石灰硫黄合剤散布				松くい虫予防剤散布	松くい虫予防剤散布(2回)	松くい虫予防剤散布	松の新芽が止まるお盆明けを目安に剪定を開始(~6月)		松くい虫予防剤散布(予備)		
その他(約40本)ヒラドツツジ・サツキ	施肥	ハゼ、サルスベリ、フジ等落葉樹の剪定	施肥・2週間に1回、芝刈り・草刈り(~9月)	サツキ・ヒラドツツジ等雑木の予防(~9月)	浜街道沿いのボックスウッド、カシ、ウバメガシ、茶席周り	サツキ・ツツジ類のシンクイムシ予防	必要な場合は大きくなりすぎた木の強剪定	お盆前に園周辺の雑木の剪定	施肥		島の低木やハマヒサカキ剪定、ヤマモモ、マキ、モッコク	正月前に園周辺の雑木の剪定





県管理による栗林公園・山林などは年2回の散布ですが、その散布方法だと薬液が濃いため、モミジやカシの多くある中津万象園の場合、それらの木に影響が出てしまいます。そのため当園では、薬液の濃度を下げ、回数を4回に増やすという方法を採っています。手間はかかりますが、結果は良いようです。園内を35のエリアに分けて、計画的に剪定します。一番本数が多いのは、晴嵐の島。本来、松の手入れは春先に集中的に行うのが最適ですが、少ない人員で従事するため、晩秋から翌年の初夏にかけて、ほぼ年間を通して作業しています。

1 景観を妨げる木の整理を実施（強剪定、雑木の撤去）※中根史郎庭園研究所指導による



園の復元・公開以来34年を経て、サツキ・ツツジ等の低木が大きくなりすぎたり、実生木や生垣が繁茂するなどして、中景と遠景のほとんどすべてを分断・遮断し眺望が失われた状態にありました。そのため、本庭園独自の景観や眺望を回復するべく、文化財庭園として必要な有識者の関与として昭和57年の復元の際に指導を受けた中根金作先生の意を継ぐ中根史郎庭園研究所に調査・計画を依頼。必要な強剪定や雑木の撤去等を実施しました。

2 傘松の修景（2016～2017年）※中西勉氏指導による

2004年の台風による倒木で、大きな被害が出た大傘松。折れた箇所を癒すために、まずは木を守り、成長させることを優先させてきましたが、東西南北の日当たり等による生育差で傘の頭頂部が歪み、開園当初の美しい姿からは遠くなっていた現状がありました。そのため、園の復元当時に傘松の修景の指導を受けた人物を探し、栗林公園で長く庭園管理を担当し、香川県栗林観光事務所主幹を務めた中西勉氏であることを確認。指導を仰ぐことで美しい傘松の姿を取り戻しました。

修景の手順

1. 傘の中心を決め、棒杭を立てる
2. 棒杭の頭頂から下辺外周に向かって放射線状に縄を張り（兼六園の雪吊りをイメージすると分かりやすい）、全体の形を決める
3. 松の中と外に分かれて姿を確認しながら、梃子という道具を使って縄に沿って枝を調整
4. 縄等で枝を固定し、落ち着くまで木の様子を見ながら形を整えていく







歴史を紐解き、価値を再発見する調査研究

いまでこそ、中津万象園の庭園や茶亭の評価は定まってきた感がありますが、以前は資料も乏しく、調査研究されたきた過去もほとんどないのが実情でした。

そのような中、「自分たちでこの庭園や茶亭の価値を再発見してゆかねばならない」との思いから平成24年度には財団法人福武学術文化振興財団の助成を受けて『郷土における未来文化遺産の創生―「中津万象園・丸亀美術館」から発信する故郷の未来づくり』の調査研究を実施しました。

調査を通してさまざまなご縁が生まれました。名古屋工業大学大学院の麓和善教授（当時）による園内茶亭二棟の調査研究（観潮楼は現存する国内最古の煎茶席であることを確認）と耐震・修復の指導、小川流家元後嗣（当時。現家元）による観潮楼修復竣工の茶席開きなどをきっかけに、少しずつその価値の再発見と発信を進めてきました。

その甲斐あって、今では多くの専門誌や文献にも紹介されるなど、一定の成果を上げています。


三清会通信
第134号
2015年3月25日
発行　三清会事務局
京都市北区上賀茂
中山町38小川流家元宮内
http://www.ogawaryu.com/

屋根も美しく再成した観潮楼

観潮楼に思う

小川　可楽

寒さも少し和らぎ始めた二月初旬、光栄にも中津万象園保勝会評議員の高嶋有紀子様からお声掛けを頂き、香川県丸亀市にある国指定名勝「観潮楼」において、その茶会を開催させて頂きました。この煎茶会は、記念の絵図にとどまらず大変意義深いものでした。

中津万象園は、元禄元年（1688年）に京極二代目藩主高豊侯により、丸亀藩中津別邸として造営されました。一万五千坪にも及ぶ敷地には千五百本以上の松が植えられ、庭の中心には近江八景をなぞらえた島々を配し、その島々を橋で結んだ広大な回遊式大名庭園となっています。そして、この庭園内に、京極五代目藩主高中侯の時代に建築されたであろうと言われている茶室「観潮楼」があるのです。

「観潮楼」は、庭園内の池に面して建てられた入り母屋造りの高床式建築の小さな茶室で、二面の障子を開けると庭園の爽やかな景色を一望することができます。また、視線を遠くに投げかけると、その名のとおり瀬戸内海を眺めることもできます。特に、夕陽に染められた景観は、筆舌に尽くしがたいほど素晴らしいものです。

今、この茶室の文化財的価値が再評価され始めています。麓和善名古屋工業大学教授の学術調査によって、「観潮楼」は現存する煎茶席としては国内最古であることが明らかになったのです。丸亀藩古文書に、安永十年（1781年）には「観潮楼」とみられる建物が既に存在していたと記されており、それは頼山陽の山紫水明処などの茶室より古い年代となるそうです。また、江戸時代の大名庭園にあった茶室が、抹茶席ではなく煎茶席であったということも大変な驚きで、煎茶史に新たな事実が加わることになりました。

封建制度が厳しい当時、民衆が勝手に大名庭園に入ることなど想像出来ませんが、中津万象園では「観潮楼」が建築された頃、宴大にも民衆の往来が許されていた様です。それ故、庭園は地元の人々に長く愛され、皆の力で大切に守り続けられてきたのです。そこには、煎茶精神に通じる京極藩主の民衆を労わる優しい人柄も感じられます。その先人の崇高な思いに学び、この歴史的な地に再び煎茶文化を根付かせることが、私の大切な役目だと思います。

▲最も早く「この茶亭は煎茶席だ」とご教示いただいたのは小川後楽先生でした（小川流の会報に掲載された茶席開き）

丸亀市中津町にある丸亀京極藩の大名庭園「中津万象園」の園内にある茶室「観潮楼」が、存在が確認されている煎茶席としては国内最古であることが、名古屋工業大学院の麓和善教授（建築歴史・文化財保存修復）の調査で明らかになった。

中津万象園「観潮楼」

国内最古の煎茶席


観潮楼

修理・復元に向け実測調査が行われた観潮楼＝丸亀市中津町、中津万象園

江戸後期の初めごろ（18世紀後半）に建てられたとみられ、幕末から明治にかけて流行していく煎茶文化の非常に初期の特徴を残す煎茶席として文化財的価値は高いと評価している。

観潮楼は、池にせり出した入り母屋造り中2階の高床式建築。池に面する2方の障子を開けると外の景色が楽しめるという開放的な作りで、閉鎖的な狭い空間の中で茶事を行う抹茶席とは対照的な煎茶席の特徴を示している。

江戸後期 初めごろ

名工大大学院教授が確認

麓教授によると、棟札など建設に直接関わる記録はないが、丸亀藩の古文書の中に、5代藩主・京極高中の時代の1781（安永10）年には観潮楼とみられる建物が存在したという記述がある。

煎茶は江戸時代の初めに黄檗宗の僧侶隠元が中国から日本に伝えた喫茶法。江戸中期に国内に広がり、幕末ごろから大流行したといわれている。麓教授が確認した古い煎茶席は全国で50棟ほどあり、これまでは歴史家・頼山陽の茶室として使われた山紫水明処（京都市）など1800年代初めの建物が古いとされてきた。

これらの煎茶席には当時の文人らが好んで用いた「唐物」があしらわれているが、「観潮楼は唐物を使い出す以前の建物。非常に初期の煎茶席で、確認されたものでは一番古い」と麓教授。現在は丸亀市指定文化財だが、「現存する煎茶席自体が少なく、もっと上の文化財になる可能性は十分にある」としている。

観潮楼には建設時の図面もなく、老朽化によりかやぶき屋根などの損傷が激しいことから、丸亀市は本年度から修理・復元に向けた補助事業に着手。麓教授の研究室に依頼して実測調査と破損状況の確認などを行っている。

四国新聞平成25年11月14日号


丸亀市指定文化財
中津御茶所（茶亭・母屋）
保存修理工事報告書
平成30年3月
中津万象園・丸亀美術館

「丸亀市指定文化財　中津御茶所（茶亭・母屋）保存修理工事報告書」

平成26年度～平成29年度にかけて、耐震化も視野に入れた観潮楼の調査・保存修理、母屋の調査・保存修理、各々の自動火災報知設備の設置、修理工事報告書の刊行を行いました。（丸亀市より補助金を受け、名古屋工業大学大学院　麓和善教授指導により実施）

行政・民間との協働による研究・調査活動と公開

▼丸亀市との協働事業として検証・制作した、丸亀城と中津万象園をつなぐ道を案内するＭＡＰ

丸亀市教育部総務課及び産業文化部文化観光課と平成26年に作成。
丸亀市に残る、江戸時代の歴史文化を伝える「丸亀城」と「大名庭園（中津万象園）」をはじめとする地域の宝物について、未来の子ども達にも愛される形で残すために、これまでとは違った“江戸の体温を感じて楽しくなる”という切り口から検証し、市民とのワークショップを通じて観光資源を再発見することで、自転車や徒歩で歴史文化を楽しめる観光の形を提案した。



▼平成24年度に財団法人福武学術文化振興財団の助成を受けて行った『郷土における未来文化遺産の創生―「中津万象園・丸亀美術館」から発信する故郷の未来づくり』研究報告書では、琴峯詩集、丸亀繫昌記、明治～昭和の文献から中津万象園や当時の丸亀藩の姿を調査した



「琴峯さんと散歩♪」と題されたこの研究報告は、その調査に至る過程で出会った縁も貴重であった。煎茶、日本庭園の研究をされている民間の研究者の方々からはじまる人脈は、その後の中津万象園の文化的価値を立体的に浮かび上がらせるきっかけとなる。

歴史文化・まちづくり・観光のプラットフォームとして公開・活用

1 絵画館を活用した美術展示

（一流のアートに触れる場所／地元作家の発表の場）





2 企業研修の場として





3 婚礼、前撮り等節目の記念の舞台として





4 子ども茶会、野外映画上映会など各種イベントの会場として





5 伝統文化の発信の場として





大名庭園とはどんな場所だったのか。
その根本に立ち返り、現代の大名庭園のあり方を考えていきます。

大名庭園は、普通のお庭と何が違うのでしょうか

- その景色をただ眺めるだけでなく、非日常や社交を楽しむ場であった
- 園内にある茶亭やあずまやでお茶や詩歌・娯楽等の場を設え、客人をもてなし一日ゆっくりと回遊して楽しむ場所だった
- 家来や家臣（家族や友人）と親しく過ごす親睦の場
- 「ハレの宴」だけでなく、心静かに過ごせる癒しの場

現在の中津万象園の持つコンテンツで実現できます

- 散策にぴったりのサイズ感の池泉回遊式庭園
- 屋内、屋外で楽しめる茶席
- 食事処懐風亭（どんなシーンでも対応できる安心感のある個室会食）
- 美術館・郷土の伝統に触れるうちわの里

中津万象園は市民の庭であり続けます

- 地域の皆さまが人生の大切な時を過ごす場所となるために、中津万象園は公開し続けることを重視します

3 活動を通して実現すること

中津万象園は、地域文化の中での大名庭園の楽しみ方を継承しつつ、現代における存在意義を追求します。









丸亀市指定名勝　中津万象園

公益部門		にぎわい部門
庭園の維持保全と活用	美術館・うちわの里	和食レストラン

中津万象園がもたらすもの

Needs
中津万象園はどのようなニーズに応えるか？

- 地元を誇りに思いたい
- 大切な人を「ちょっといい場所」でもてなしたい
- もてなす相手に敬意や尊重、愛情を伝えたい
- 癒しや会話を楽しみたい

Feeling
中津万象園はどのようなフィーリングを与えるか？

- 「丸亀にはこんな素敵な場所がある」という誇らしさ。「自分たちの庭」という所有感、愛着
- 景色が良くて気持ちがいい
- 歴史的・文化的な裏付けのある安心感
- 地元への愛着

Benefit
中津万象園はどのようなベネフィットを提供するか？

- 大切なひとをもてなすための特別な場所ができる
- 静かな緑の庭園の中で、普段しない会話ができる
- 地元の歴史や文化に触れ、も関与しているという誇りを持てる
- 食事・散歩・美術鑑賞・休憩と多くのコンテンツがある
- 日光浴と「歩く」ことによる健康への影響
- すれちがう人同士の気持ちのいい会釈、親近感

お殿さまは実際、どんな風に大名庭園を楽しんでいたか

6代目藩主の高朗（琴峯）侯の詩集「琴峯詩鈔」に何度も登場する中津万象園。

大名庭園としてはスケールが小さく、いわゆる「公的なお接待」のための場所ではなく、「お殿様が楽しむためのお庭だったのでは?」との見解もあります。

お殿様はいったいどんな楽しみ方をしていたのか、琴峯詩鈔から探ってみましょう。

中津別館即事分韻（二巻）

枕レ池亭子嫩涼生。
露檻風簾晩更清。
環坐傾レ杯猶未レ醺。
已聞松頂暮鴉鳴。

中津別館即事分韻（二巻）

松梢宿鴉噪。
波面浴鷗雙。
坐覺新凉動。
清風入綺窓。
池閣披襟坐。
凉生滿檻風。
藕花浮水面。
香入竹簾中。

夕暮れ、
お酒と共に気心の知れた友人と
秋の訪れを楽しむ

※京極家御連枝日記には中津で建網漁をしたり宴会をしたりする様子も描かれています

夏晩中津荘分韻得庚（六巻）

荷葉滿地涵レ水清。
露珠跳處午風輕。
披レ衿拍レ手凭二欄角一。
魚鼈馴レ人不二敢驚一。
筆海雲煙淡々生。
晩来風定碧波平。
欄前目送白帆影。
映二出青松一特地明。
紫芡青菱水一泓。
潺湲激石碎金聲。
偶爾移舟尋句去。
恐他宿鷺睡鷗驚。

遊金倉別墅（八巻）

一脉流泉繞二砌隅一。
潺湲聲裡暑將レ無。
磯邊穿レ藻魚兒戲。
屋角喜レ晴鳩婦呼。
籬外偃松青蓋密。
階前舊辭綠茵鋪。
景奇却恨詩難レ就。
終日凭レ欄撚二短鬚一。

蓮の花の香りや、海を走る帆掛舟、亀や魚の情景を楽しみながら、歌を詠む

園居（六巻）

三畝庭園苔逕通。嫩晴天氣煖如レ烘。
魚穿二新藻一水初漲。燕補二舊巢一泥漸融。
滿院松聲茶未レ熟。半簾花影日將レ中。
間坐南軒睡醒處。時聞金鐸響二東風一。

目耕堂即事（八巻）

檐間小銕響丁當。占斷清風一味凉。
案上生書三四帙。囊中舊稿百千章。
苔紋蝕レ砌含二濃露一。
蕉扇翳レ窓遮二夕陽一。
誰識閒人閒不レ得。日移酒具與二茶牀一。

睡起試茶（八巻）

宿酒纔消睡起時。西窓偏覺夕陽遲。
兎道新茶初到レ手。汲レ泉先自試二槍旗一。

二日酔いの朝、暖かな春の日。
くつろぐひと時には茶の香りが漂っていたようです。
時には茶（煎茶）を飲んでいるうちに、
いつのまにかその茶器がお酒の盃になっていることも。

また、1780年ごろのお触書に「自然往来の際に静かに拝観するのは良いけれど、弁当や酒を持って来て大騒ぎをするようなことをしてはいけないよ」という趣旨のものが。お殿様だけでなく、庶民にも親しまれた場所だったようです。

大名庭園が庶民が信仰していた稲荷・地蔵を庭園内に取り込んでしまった場合には、そこへ参拝させたり、子どもたちへもち投げやミカン投げをして遊ばせたりしたこともあったといいますから、中津万象園も例外ではなかったのかもしれません。（園内には石投げ地蔵・伏見稲荷等の各社があります）

中津万象園は子どもたちがのびのびと感性を磨く遊びと学びの場となります



例えば幼い頃から庭園に親しむことも、地域で得られるとても素晴らしい経験です。自然の息吹を感じる感性を育み、茶道など伝統的な日本文化に触れることは、大人になってからの貴重な財産となるでしょう。

そして両親、祖父母、兄弟と過ごす何気ない庭園の休日も、家族のよい思い出となり豊かな人間性を形成する助けとなります。

中津万象園では、茶道体験や自然観察など、子どもたちに向けた日本庭園との良き出会いが経験できる催しを積極的に行っています。









4 中期計画と評価

中期的な計画と評価方法、支援者への報告

中 **中津万象園を熟知した庭師「お庭さん」後進の育成**
庭園内の自然を熟知し維持管理する庭師は欠かせない存在。しかし育成には多くの時間を費やします。

期 **修景等に対する大型投資に耐えうる資本力の確保**
大名庭園の特性を保ち、その価値を維持管理するには時に大規模な修繕などが生じます。

計 **「生き物としての庭」を育む持続可能な体制**
気候変動や災害、あるいは樹木の病気など予測不能な事態にも対応できる体制が不可欠です。

画 **特に喫緊の課題として、池のヘドロ処理**
周辺環境の変化によりヘドロが蓄積。景観を大きく損なっていますが、対策は容易ではありません。



支援者の皆さまへの活動報告媒体

2021年1月
「京極大名庭園 中津万象園だより 森羅万象」を創刊。
四季折々の庭園の営み、開催される文化芸術イベントの紹介、京極家の歴史など多岐にわたる内容。ゆかりのあった各方面に送付し来園と賛助会入会促進を定期的に働きかけている。

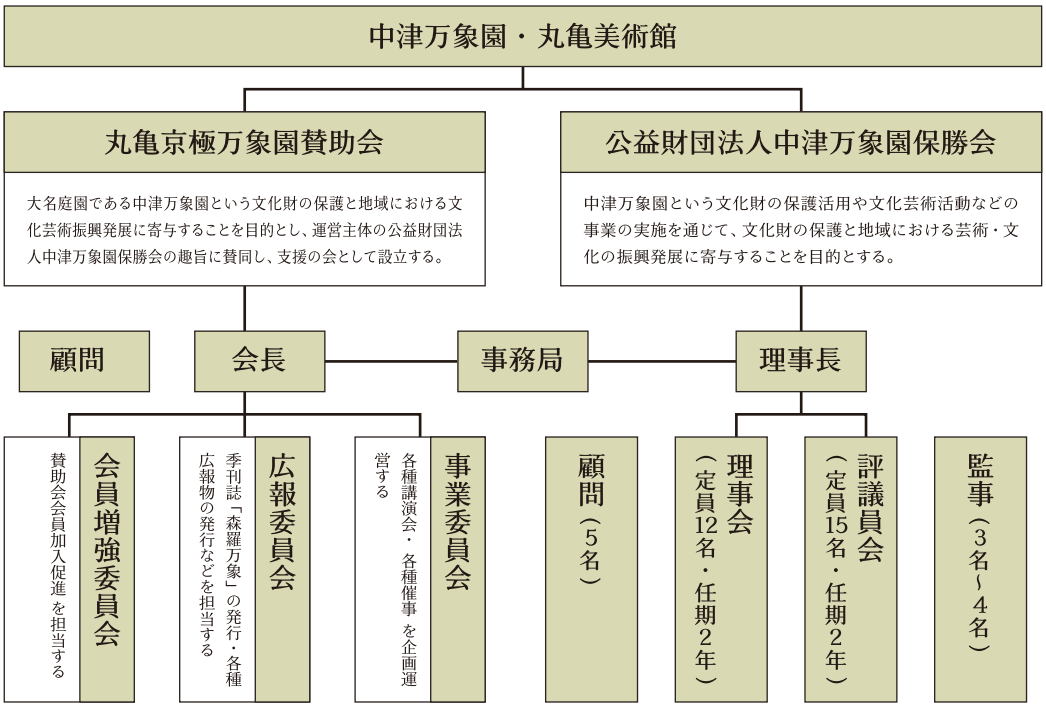
2021年12月
本紙「大名庭園を未来につなぐ　地域を愛するすべてのみなさま方へ」と題して、公益財団法人としての活動報告（ケースステートメント）を発刊した。



5 ガバナンス

事業を運営・監督する理事・評議員の体制

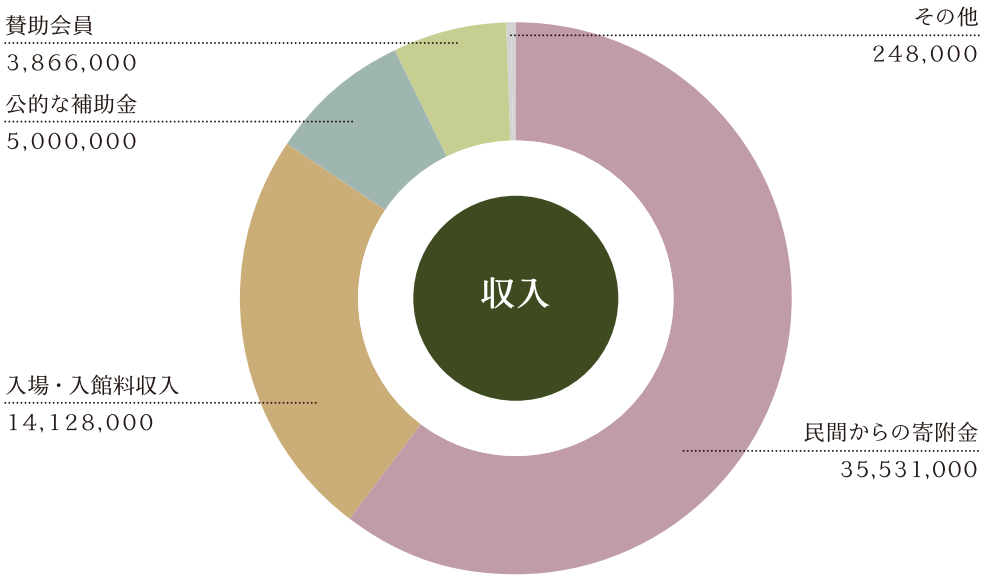
●理事…12名　●監事…3名　●顧問…4名

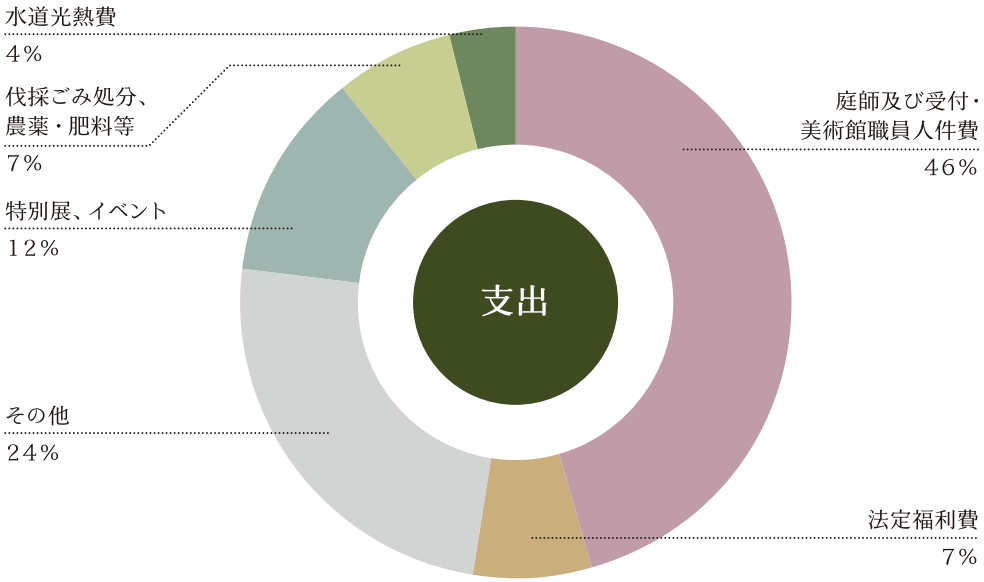


6 財務・予算

必要な経費・収入・支援

経費の多くが庭園の維持管理に割かれています。「庭園は生き物」であるゆえに、「庭師」の手による日々の手入れを欠かすことができません。中津万象園では、一般開放以来一貫して常駐の専属庭師チームによる手入れを行っています。彼らは「園の木々一本一本と、それを取り巻く自然の営み」を知り尽くしています。庭師は、庭園と完全に一体の、大名庭園の文化の担い手です。





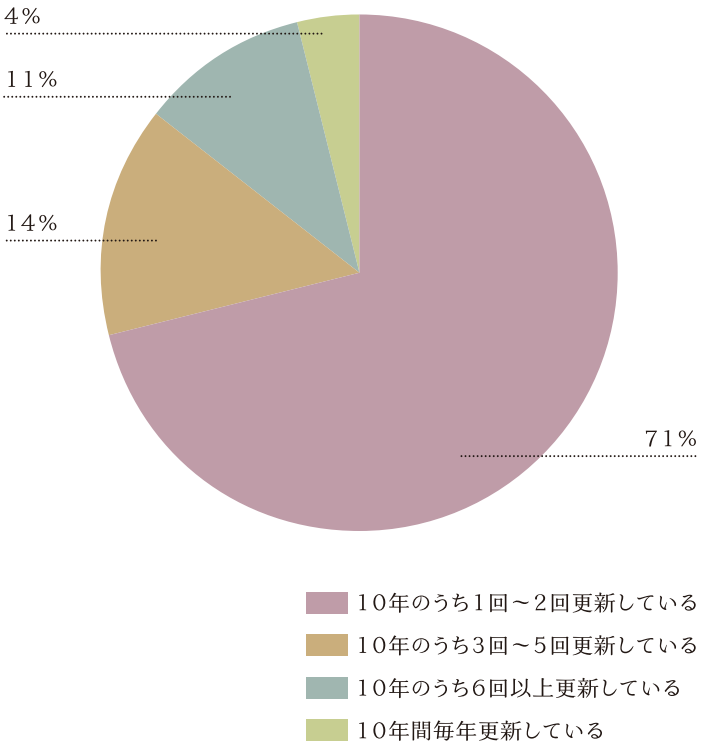
※2019.3～2021.3の3年平均値による。理事評議員の報酬の支払いはありません。

7 活動のつながり、ひろがり

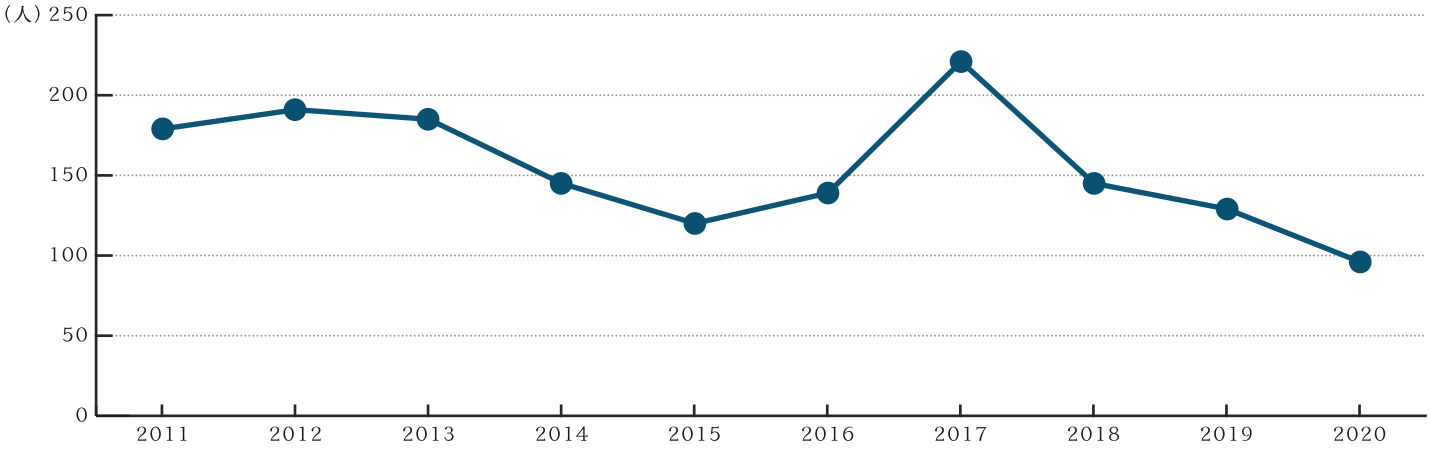
丸亀京極万象園賛助会員数の推移

中津万象園を支えてくださっている賛助会員数の推移をみると、法人・個人ともに２０１７年をピークに減少しています。賛助会に入会すると、特別展や常設展の情報がタイムリーに届けられるほか、毎月のメールマガジンを通じて園の今の様子(写真)や併設施設のニュース等が届きます。そういった情報提供を通じて、「年間数回以上中津万象園を訪れていただく」流れをしっかりと作っていくことが、将来にとって重要な布石になると考えています。また、最近では経営方針発表会や展示会などで定期的にご活用いただいている事例も増えてきました。経営者の想いを社員や顧客に伝える「特別な場」として選ばれているということであり、この流れを大切にしていきます。

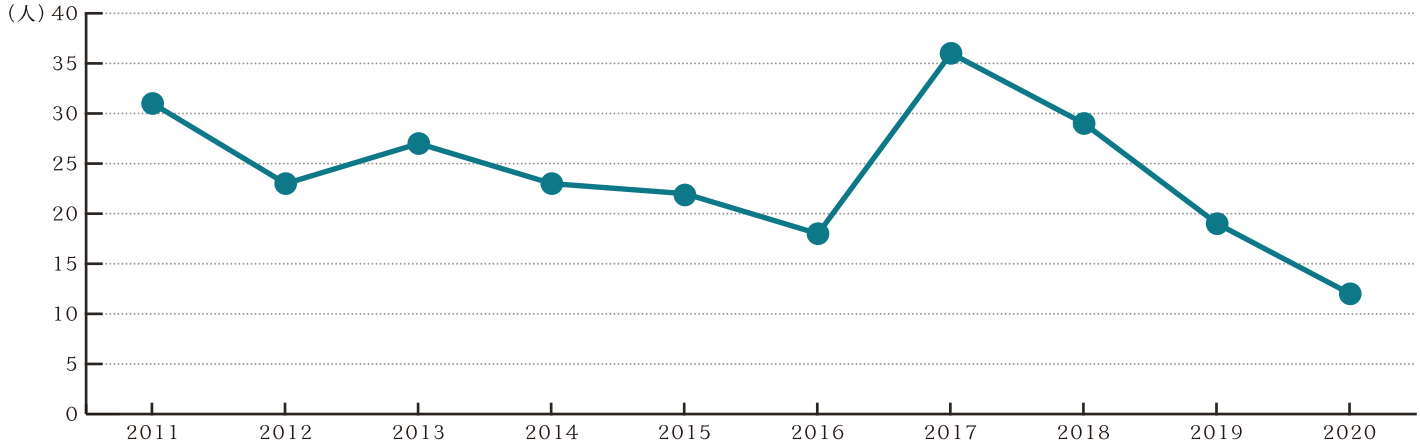
賛助会員(個人)の更新回数内訳



賛助会員(個人)の会員数推移



賛助会員(法人)の会員数推移



私が中津万象園を応援する理由

大木 亀丸さん　丸亀城お笑い人力車芸人

年間の訪問頻度　特別展などのタイミングで年に数回

日本の四季を感じられる癒し空間です。丸亀に居ながら、京都を感じられます。そして、インスタ映えスポットです。地元の方にもたくさん来てほしいと思います。一度、来たらハマります！

薦渕 雅春さん　高松市在住

年間の訪問頻度　特別展などのタイミングで年に数回

中津万象園、妻との最初のデートで訪れた想い出のスポット。猪熊弦一郎美術館に行った後、食事をして中津万象園へと。何と言っても朱色の橋の上からの眺めが素晴らしい。池に浮かぶ島々を渡って行くのが好きである。冒険してるような感じもして。

村上 義憲さん　セーラー広告

年間の訪問頻度　特別展などのタイミングで年に数回

歴史を未来の子供たちに語り継いで行くことは、とても重要なことだと思います。この貴重な庭園を見て古き時代に思いを寄せてもらいたいと思います。この語り継ぐべき中津万象園を、皆で大切に大切に守り続けていかなければならないと思います。

40代男性さん　綾川町在住

年間の訪問頻度　月に1回くらいは行っている

ほぼ毎月家族と来ますが、小学生の子供2人も広い園内で季節の色々な植物がみられるので喜んでついてきてくれます。「前来た時からここが変わったねー」などと話をしながら楽しく散策しています。両親も園のファンでお客様を連れて散策と会食などしているようです。

福本 愛莉さん　きみともキャンディ

年間の訪問頻度　イベント企画などで数回

撮影会やファンの方との交流会で行ったことがあるのですが、すごく広くて、いろんな木々があってすごく季節を感じることができます。それに園内に入ると、とても静かで、ゆっくり落ち着きたい時やインスタ映えにも綺麗でオススメです😊

石村 嘉成さん　アーティスト

年間の訪問頻度　特別展などのタイミングで年に数回

昨年、中津万象園さんで特別展を開催して頂きました。こんなにすばらしい庭園のある会場で、私の絵を皆さんに見て頂けてとても嬉しかったです。新しい作品もいっぱい描いています。またここで皆さんに見ていただけることを楽しみにしています。

東 信男さん　丸亀市在住

年間の訪問頻度　特別展などのタイミングで年に数回

庭園側から見た観潮楼や母屋の景観や高床式の観潮楼からの景観は素晴らしく、文化財と緑が織りなす空間は落ち着きと安らぎを与えてくれます。大傘松や松の景観は、盆栽好きな外国人の方々に受け入れられれば、多くの集客につながると思います。

狩野 裕子さん　洋画家

年間の訪問頻度　県外在住。帰省の折は、季節の花々や庭園の風景を楽しみに立ち寄ります

中津万象園は今後もずっと守るべき大切な、美しい文化財です。松の見事さ、敷石、太鼓橋、鳥居など色彩対比が美しく、魅了されます。手入れも行き届き、文化と歴史の融合を感じる優雅さ。草花も鳥たちも特別な存在で絵画を観ているよう。ここを未来に繋げていけるように、私にもできる事を考え、応援していきます。

篠田 綾香さん　丸亀市観光親善大使

年間の訪問頻度　特別展などのタイミングで年に数回

見応えのある庭園は着物や浴衣を着て撮影するのにピッタリです。朱色の百本鳥居も映えスポットでオススメです。
石投げ地蔵尊では白い石にお願いごとを書き投げ入れる、家族みんなで盛り上がれてとても楽しいです。お茶室でお抹茶をいただくのも楽しみの一つです。

村尾 剛志さん　丸亀市・造園技師

年間の訪問頻度　特別展などのタイミングで年に数回

もう40年以上前。小学4年の私は、クラスメイトの女子と二人だけで中津万象園にこっそり忍び込んだのです。つまりここは、彼女の手を取り、鬱蒼とした「けもの道」を探検した「初デート」の場所。これからもそんな「私の庭」として身近な庭であってほしいと思いますし、私と同じように感じてくれる人が増えればいいなと思います。

井尻 誠司さん　高松市在住

年間の訪問頻度　近所を通ってちょっと時間のあるときに

いろいろコンパクトなところがいい。庭はゆっくり歩いても３０分でまわれる。お茶室は手のひらにのるほど愛らしい。美術館は作品が多くて疲れることもない。オリエントな物たちは静かにならんでいる。でも全部が本格的にそろっている。そんなところが「じわっ」といい。

片岡 妙晶さん　僧侶・作家

年間の訪問頻度　特別展などのタイミングで年に数回

世の中の楽しみや面白がり方を詰め込んだ、オモチャ箱のような万象園。鴨や亀、庭園を覗きに来た自分までお庭の一部にしてくれるような懐の深さ。正に「森羅万象」が詰まった庭園です。

三宅 俊輝さん　心の整備士／NLPビジネスメンタルコーチ

年間の訪問頻度　特別展などのタイミングで年に数回

五感が開放され、タイムスリップできる中津万象園。頭の中がモヤモヤした時、自分の心の声を聞きたいなと思った時、そんなときに足を運ぶ場所です。景色、音、光、万象園の魅力は一度の訪問では味わいきれません。皆さんに是非足を運んで頂けたら嬉しいです。応援しております！

支援メニュー

法人会員・個人特別会員・個人普通会員の3種類があります
（さらに大口の寄付をご検討いただける場合は、お問い合せ下さい）

	法人賛助会員 一口100,000円	個人賛助会員 特別会員 一口 30,000円	個人賛助会員 普通会員 一口10,000円
中津万象園・丸亀美術館 入園・入館料	社員・同伴者 **半額**	ご本人・ 同伴者3名まで **無料**	ご本人・ 同伴者2名まで **無料**
中津万象園内　施設 2階ホール・コロボックル	施設使用料 **半額**	施設使用料 **半額**	—
味処 懐風亭 ※一部該当しないメニューあり	社員のみ **10%OFF**	ご本人・ 同伴者3名まで **20%OFF**	ご本人のみ **10%OFF**

企業様向け特典・税優遇等　当施設は特定公益増進法人です

申し込みはこちら

- 20万円以上の寄附金で、園内全ての場所を一日貸し切ることができます。
  （但し設営等については要相談。貸切は水曜日のみ。企業研修、セミナー等にご活用ください。
  利用者より入場料を徴収することはできません。また、法人賛助会員制度の各種割引は適用となりません）
- 当財団は特定公益増進法人のため、特別損金算入制度の適用となり、下図の計算式により経費として損金算入されます。

寄付金の区分	特定公益増進法人（公益財団法人 中津万象園保勝会）
寄附をした者の扱い 寄附税制の概要（法人税） 財務省HPより	以下を限度として損金算入（資本金等の額の0.375％＋所得金額の6.25％）× 1/2 ※寄付金のうち損益算入されなかった部分については、一般寄付金とあわせて （資本金等の額の0.25％＋所得金額の2.5％）× 1/4を限度として損金算入される

例 1　資本金3000万円、所得金額（税務上）800万円の企業様の場合

（30,000,000 × 0.375％＋8,000,000 × 6.25％）× 1/2
＝306,250円　が特別損金算入限度額となる（一般寄附金とは別枠）

例 2　資本金10000万円、所得金額（税務上）4000万円の企業様の場合

（100,000,000 × 0.375％＋40,000,000 × 6.25％）× 1/2
＝1,437,500円　が特別損金算入限度額となる（一般寄附金とは別枠）

施設概要

交通手段	高松空港より車で50分 JR高松駅より車で50分　最寄駅 JR讃岐塩屋駅 徒歩15分・JR丸亀駅より車で約6分
利用時間	原則として9:00~20:00　懐風亭（レストラン）水曜日休（団体受入の場合は要相談）
使用条件	園内の車の通行不可　各施設の利用料についてはお問い合わせください。（長時間割引あり）
飲食の条件	飲食・アルコール可　併設のレストラン（懐風亭）からの食事提供可能　ケータリング可

“親密でヒューマンスケール”な大名庭園と評される中津万象園。会議用ホール、待合（代笠亭・松帆亭）、茶室（母屋・観潮楼）、喫茶室（本館ラウンジ）、食事処（懐風亭）を結ぶ導線の間には陶器館・絵画館などの文化施設も点在し、江戸時代お殿様が建網漁に訪れたという海岸（園北側）には、瀬戸内海に沈む夕陽を背景にイベント等の行えるステージ付きの広場もあります。小ぶりですが、心を通わせ寛ぐための会場にはぴったりです。

会場名	広さ	利用人数
本館ホール （大ホール）	180.25m²	シアター形式（椅子のみ）200名　パーティー形式（着席）80名　会議形式（長机）90名　※大・小をつなげて利用の場合 シアター形式（椅子のみ）300名　パーティー形式（着席）130名程度（レイアウトによる）
本館ホール （小ホール）	111.3m²	シアター形式（椅子のみ）60名　パーティー形式（着席）40名
茶 席	8畳+6畳	母屋20名（茶席として利用した場合）　※観潮楼は通常非公開のため 要相談
野外広場 コロボックル	—	ステージあり ※野外映画上映会などの映写機台として使用できる構築物もあ ります
懐風亭 （レストラン）	—	全館利用の場合100名 その他各種個室の要望に対応可

長時間割引きがあります。利用料金等詳しくはお問合せ下さい。


本館大ホール


母屋


懐風亭


母屋


母屋

〒763-0054
香川県丸亀市中津町25-1
公益財団法人　中津万象園保勝会
（中津万象園・丸亀美術館　内）

HPアドレス ■ http://www.bansyouen.com/
電話番号 ■ 0877-23-6326
メールアドレス ■ bansyouen@shirt.ocn.ne.jp

本冊子についてのお問い合わせ先

0877-85-8860
（事務局／西・山口）